

かかりつけ湯で伊豆ウエルネス構築 短大(三島)・宮川幸司准教授

目の前に富士山を望む三島校舎。そこから南に位置する伊豆半島が宮川准教授の研究フィールドとなっている。

静岡県が東部で展開する「ファルマバレー」に発信する研究開発を進める「かかりつけ湯」



「かかりつけ湯」で地域に貢献する宮川准教授

ロジェクト(富士山麓先端健康産業集積プロジェクト)」。がんセンターや温泉を軸に「健康増進疾病克服」と「県民の経済基盤確立」の両面で世界に発信する研究開発を進める「かかりつけ湯」

観光のキーワードは健康

ファルマバレー構想を世界に発信

「健」一「癒」一「食」一「料」が一を再生することになる。柱。温泉を活用した健康増進の施設、糖尿病などの持病や食品アレルギーに対応した食事、連泊や平日利用で割安な料金を提供する。熱海から下田までの50の旅館やホテルが、観光客の滞在をサポートしている。

「伊豆の魅力は減少している。資源に恵まれた伊豆の魅力を再発見・再構築することが、ピータールが「かかりつけ湯」に参加している。

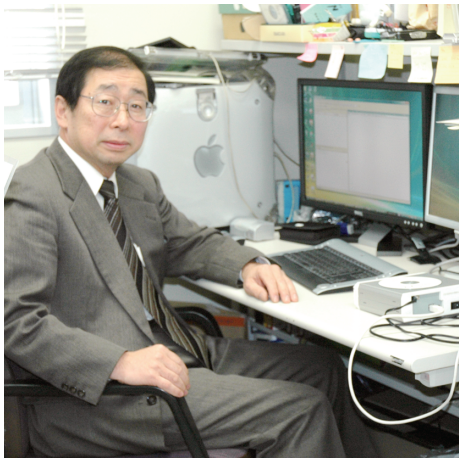
伊豆の魅力再構築

「伊豆の宿泊者は減少している。資源に恵まれた伊豆の魅力を再発見・再構築することが、ピータールが「かかりつけ湯」に参加している。

高齢者の運転特性評価と支援システム構築

生産工・景山一郎教授

研究テーマは「自動車支援システムの構築」について。高齢者の運転特性を評価し、それを支えるシステムの構築を目指す。安全な運転ができるよう支援する。



オートバイに高校時代から親しんでいたという景山教授(研究室で)

日本は今、65歳以上の高齢者人口が20%を超え、さらに予測では、現在よりも増える。高齢者の運転特性を評価し、それを支えるシステムの構築を目指す。

スピードを自動制御

高齢ドライバーの予防安全技術の開発 衰えを補い安全運転を支援



クルマの運転が疑似体験できる「ドライビングシミュレータ」の前に立つ景山教授

高齢ドライバーの予防安全技術の開発。衰えを補い安全運転を支援。運転特性を評価し、それを支えるシステムの構築を目指す。

安全面からも研究。この最大の難問が、アクセルを踏んでいる運動作を判別できない。これを補うためのシステムを開発している。



「観光のすべて」を教える宮川准教授

「観光のすべて」を教える宮川准教授。観光関係には「旅行業務取扱管理者試験」という国家試験があり、「旅行業法・約款、J Rや航空運賃料金の計算、旅券・査証の申請手続きなど」旅行に関することすべてが対象になる。

景山 一郎 (かげやま いちろう) 昭和47年生まれ。工学部機械工学科卒業。52年大学院工学部卒業。研究科博士。教授。この間、オランダ・京都出身。58歳。

プロフィール

工学博士。生産工学部 日本機械学会フェロー。助手、専任講師、助教など。国交省車両安全対策検討会検討員。東

宮川 幸司(みやがわ こうじ) 昭和52年生まれ。同地域観光カリス神奈川大学法学部卒。国

プロフィール